



奥三河木質バイオマスの高度利用

グループ名：再生可能エネルギーチーム

メンバー：川上政彦、木口拓海、櫻井則行、永津伸治

チューター：波岡知昭、黒沼英明、雪田和人

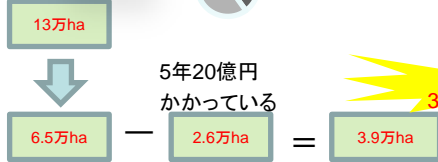
現状の把握

	間伐の立木材積伐採量 (素材換算)	未利用 (m ³)	未利用率
設楽	50,348	36,364	72.2%
新城	17,986	9,558	53.1%

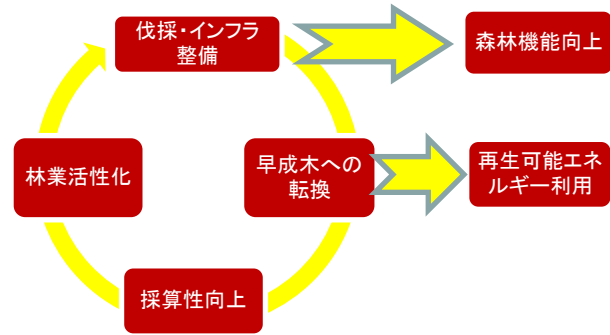


※間伐材の状況 (HPより)

採算可能森林面積



2030年に向けての提言の概要



提案の内容

- ①スギ・ヒノキ中心から採算可能森林の**47.9%**をやなぎなどの**早成木に切换え**
- ②森主は森林整備と収益があがり、木材製造企業は木質バイオマス熱利用先が確保され、農業生産企業熱利用ができブランド化が図られ、地元雇用が生まれる
- ③CO₂排出権の販売とカーボンオフセットの**収益の一部を森林保全**に充てることで、農産物利用による「県民参加型支援制度」も作られる

提案実現のための具体的な取り組み (アクションプラン) と実現可能性



波及効果

伐採と売価・経費/年した木材の用途
 □2,077ha × 300 m³/ha=623,100 m³
 82億9681万円
 □伐採と植樹に必要な経費
 70億1333万円

伐採した木材の用途
 素材/住宅用材など
 中小径木・残材/木質バイオマス熱源
 ※全て木質バイオマス熱源とした場合
 186,930m³ × 2.3985Gcal
 (生木1 m³) =448,352Gcal

J-クレジット供給量と価格
 J-クレジットではハウスで使うA重油を木質バイオマスに全て切替えた場合**一反当たり2.8t**のCO₂排出権が生ずる
 ※バイオマスの増加分が算定できておらず、10~20%削減の可能性がある

□1t × 600円 × 3,838.22反 × 2.8t
 = **644万8210円**

カーボンオフセット農産物の量と価格
 ※発熱を全てトマトハウスの熱源とした場合
 □反収量 = 1段500g × 20 = 10kg
 1反あたり2,000株 = 18t~20tが目安

□反収入 = 正品(正品率80%) × 320円
 + 外品 = 5,244,000円

□3838.22反 × 5,244,000円 = **201億2762万5680円**